福祉教育常任委員会行政視察報告書

期　日　令和５年７月５日（水）～６日（木）

視察地　千葉県我孫子市（７月５日午前）
茨城県鹿嶋市（７月５日午後）
茨城県大洗町（７月６日午前）

視察者　福祉教育常任委員会

委員長	内村　忠久	副委員長	大野　　勉
委　員	佐藤　　匡	委　員	双木　小百合
委　員	金澤　秀信	委　員	永澤　美恵子
委　員	小島　清人		
福祉部長	市川　一博	こども支援部長	齋藤　忠士
健康推進部長	河村　香代子	教育部長	浅見　嘉之
議会事務局主査	井上　佳祐		

視察事項

我孫子市	保育園の待機児童ゼロ堅持について
鹿嶋市	かしまスポーツカレッジについて
大洗町	教科センター方式の中学校について

千葉県我孫子市（あびこし）７月５日（水）10時00分から11時30分まで

人口　１３１，０１９人（令和５年６月１日現在）

面積　約４３．１５㎢

概要　千葉県の北西部に位置し、東に印西市、南と西は手賀沼を隔て柏市があり、北は利根川をはさんで、茨城県取手市・北相馬郡利根町と隣接し、手賀沼と利根川にはさまれた細長い馬の背状の土地となっている。昭和 30 年 4 月に我孫子町、布佐町、湖北村が合併して我孫子町となり、昭和 45 年 7 月に市制をしいた。豊かな水と緑に恵まれ、都心から約 40 キロメートル、常磐線で 35 分の近距離にあることから、首都圏へ通勤する人々の住宅地としての役割がおおきくなっている。

「我孫子」という地名は非常に難読な地名として知られており、古代において「我孫子」は人名として使用されていた。古墳時代にかけて大王や大和地方の有力豪族は、各地の地方豪族を支配下におさめる際に、土地やそこに住む人々に「我孫子」という名前が付けられたと考えられている。我孫子には水神山古墳が作られ、古墳時代の早い時期から大和政

権とつながった人物がいたと考えられることから、文字として残されてはいないが、大王や大和政権との深い結びつきから「我孫子」の地名が付けられたと考えられている。

保育園の待機児童ゼロ堅持について

（1）保育園の待機児童ゼロ堅持の概要について

我孫子市では昭和 61 年度から保育園の待機児童数ゼロを継続し、令和 5 年度で連続 38 年目となる。昭和 61 年度当時の保育園等設置数は公立 7、私立 6 の合計 13 であったが、令和 5 年度では公立 3、私立 29 の合計 32 施設となっている。

待機児童ゼロを継続できている理由として、我孫子市は「我孫子市保育園等整備計画」を策定し、それに基づきながら計画的に保育園整備を行ってきた。また、保育需要が高い地域では定員の弾力化を行いながら、園児の受け入れを行うことで待機児童を無くしてきた。

待機児童がいないことで、我孫子市では保護者と保育園の直接契約の手法も取り入れた入園手続きも可能としており、これにより保護者が利用したい保育園等に入園できる仕組みづくりができている。これは、認定こども園や家庭的保育事業等が直接契約であることを踏まえて、国が待機児童解消の見込みがある自治体に対して、保護者の希望をより踏まえた保育所等の利用調整を行うことを可能としているためである。また、第 1 希望園に入園できなかった保護者に対しては、子育てコンシェルジュ等が希望を聴取して空きのある保育園等を案内する支援を行っている。

（2）産休・育児休業明け予約制度について

我孫子市では、出産前（妊娠後に出産予定がわかってから翌年度までの間）から保育園入園を予約することができる。平成 11 年度から実施し、令和 5 年度では公立、私立含めて 18 園で行っている。これは産前産後休暇、育児休業を取得する保護者がスムーズに職場復帰することを目的に実施しており、産前と同じ職場に復帰することが条件である。これにより、保護者が新しい生活の準備ができ、園も保育士の確保など、児童の受け入れ体制を整えることができる。

また、児童の精神的負担を減らすために平成 11 年度から 1 週間（私立は平日 5 日間から 2 週間）の慣らし保育を実施し、令和 2 年度 8 月からは市内統一で平日 10 日間を慣らし保育期間としている。

（3）保育園整備（マンション開発関連）について

我孫子市では昭和 51 年から我孫子市開発行為等指導要綱に「開発区域の計画戸数が

300 戸（現在 500 戸）程度を超える場合は、市の指定する場所に保育園用地を確保し、市に無償譲渡する。又、建設については事業者の負担により市が施行する。」と定め、事業者から保育園設置の協力を得ている。さらに平成 10 年度に保育園整備計画を作成し、待機児童対策を実施、駅周辺を地区として分けて、地域の子どもの数に応じた保育園等整備を実施してきた。

（4）現在の課題について

待機児童はゼロであるが、育児休業延長、または 2 年間の育児休業給付金を受けるために入園保留通知を希望する保護者が多くいる。そのため、0 歳児の年度途中入園が多くなり、8月ごろまで0歳児が定員割れしている私立保育園もある。今後は空きがある期間、また年間を通して定員割れしている法人への支援が課題となっている。また、保育士不足による業務負担や、不適切保育の報道を受けて自信喪失や委縮してしまっている保育士へのメンタルヘルスケアも課題となっている。

（5）今後の展望について

我孫子市では就学前児童数が年々減少しているが、保育需要は微増している。しかし、地区によっては定員割れが生じている地区もあり、今後は定員超えの地区からの誘導や利用定員の変更も視野に調整が必要となっている。しかし、就学前児童の減少が進み職員配置に余裕が生まれれば、各施設に加配等の保育士を配置することができ、保育の質の向上につながると考えられる。

また、国が表明した「こども誰でも通園制度」について、具体策は提示されていないが、定員割れの保育園にとっては園児の確保策として有効な制度となることを期待している。

質疑応答

質疑：マンション開発関連について、例えば戸数をわざと少なくして整備対象から外すような業者などはいなかったか。

応答：現在のところ、そのような業者はいない。マンション開発の情報を得た段階で戸数を確認している。

質疑：保育士確保のために、工夫などはあるか。

応答：宿舎を借り上げて入居した保育士に補助を行っている。また、資質確保の面では公立と私立で合同の研修なども行っている。

質疑：保育士の確保と市の職員定数の兼ね合いについて、問題はないか。

応答：もともと 3 園しかないことや会計年度任用職員としての採用などもあるので、そこまで影響はない。

質疑：入間市ではきょうだいで同じ園に入れたいという保護者の希望があるが、我孫子市ではどのように対応されているか。

応答：もちろん希望があり、きょうだいの存在などで加点をしているが、転園願いを提出してもらい、空いている園に入園してもらうなどの対応をとることもある。

総括《視察後の意見交換》

▽　児童の入園の課題に対して臨機応変に対応しており、素晴らしい手法だと思った。

▽　マンション開発に関連した保育園整備などは、入間市でも今から検討する必要があると感じた。また、土曜日の開所が午後 6 時まであることやきょうだいがいる保護者への配慮も参考になった。

▽　待機児童ゼロを堅持し続けていることは努力の結果と感じた。地形的に細長く、中央に鉄道と幹線道路があるとのことで、移動のしやすさなど、交通の面で入間市と状況が違う部分は研究したいと思った。

▽　保育士の確保については入間市も同様の課題があり、保育需要の伸びが今後あることを再確認した。

▽　予約制度は産休や育休をとっている保護者にとっては素晴らしい制度だと感じた。また、公立と私立が協議する場も設けており、役割分担を明確にしていると思った。

茨城県鹿嶋市（かしまし）7月5日（水）14時30分から16時まで

人口　６５，４８２人（令和５年６月１日現在）

面積　約１０６．０４㎢

概要　茨城県東南部に位置し、東京から約 80km、県都水戸及び筑波研究学園都市から約 50km という距離にある。鹿嶋市・東京間はＪＲ鹿島線，東関東自動車道（東関道）でいずれも約２時間、空の玄関である成田国際空港とは東関道で約 30 分、茨城空港とは車で約１時間の距離で結ばれている。東に鹿島灘、西に北浦を臨み、中央部は海抜 40m の鹿島台地、低地部は田園地帯や鹿島港と連携した工業地帯が広がっている。面積は 106.02km²で、鹿島灘沖を流れる海流の影響を受け、年平均気温 15.3℃と、四季を通じて温暖な海洋性の気候に恵まれている。北側に鉾田市、西側に潮来市、南側に神栖市と隣接している。

かしまスポーツカレッジについて

（１）事業の概要について

市民の生涯スポーツ振興にあたる指導者の資質と指導力の向上を図り、豊かな指導技術と運営能力を持つコーディネーターを養成するための専門講座として実施している。講座は実技を含めた全 10 回で、団体の企画運営から障がい者スポーツ、高齢者スポーツ、けがの予防とケア、食事と健康など、様々なテーマで開催している。

また、障がい者スポーツの実技としてブラインドサッカーの日本代表選手である落合啓士氏が講師となり、目隠しでの体操やウォーキングフットボールなどの競技体験会と講演

会も実施している。

主催は鹿嶋市、鹿嶋市教育委員会、NPO 法人かしまスポーツクラブとなっている。期間は約 3 か月で､修了後は修了証及び鹿嶋市認定スポーツコーディネーター証が授与される。

（2）事業実施の経緯について

鹿嶋市は「スポーツ先進のまち」を実現するために、スポーツコーディネーター養成講座を開設し、指導者のさらなる資質向上や新たな指導者の発掘を通して地域の指導者を養成し、市民がスポーツに親しめる環境整備を推進することを目的として計画した。

また、主催団体でもある NPO 法人かしまスポーツクラブは、事業の一つとして「かしまスポーツクラブ事業（エリアサービス)」を実施している。これは体育館等の体育施設において月曜日を除いたほぼ毎日、指導者を配置してスポーツの場を提供するサービスである。種目はテニス、卓球、バドミントン、スポーツ吹き矢、水泳、バレーボールなどの 15 種目で、ラージ卓球やショートテニスなどの初心者や、子どもから高齢者まで楽しめるスポーツも実施している。このかしまスポーツクラブ事業の指導者を育成することも目的の一つである。

（3）事業参加者の感想について

事業への参加者からの感想として、「幼少期からシニア世代まで一貫したスポーツ（健康維持）への関わり方を学ぶことができた」、「一つのスポーツに対する技術講習ではなく、スポーツ全般に対する共通の課題学習であった」、「今後の部活動地域移行やスポーツ指導において必要な講習だと感じた」、「スポーツ少年団などの指導者がもっと参加すれば青少年育成に役立っていくと思う」などの声があった。

（4）事業実施の効果について

かしまスポーツクラブにおけるエリアサービス等の事業の指導者を輩出し、指導者不足の解消や、各地区の地域指導者の育成係としてスポーツの楽しさやきっかけづくりの普及活動につながっている。また、スポーツ少年団活動の指導力が向上することで、青少年育成にも効果として表れている。

（5）今後の展望について

受講者のスポーツ活動における技術向上に努めること、スポーツ推進委員や地区および地域活動をしている指導者が連携し行事の企画や運営指導を行うことを期待している。また、障がい者スポーツを指導できる指導者も多くはいないため、スポーツカレッジの

中でパラスポーツの推進や指導法を積極的に取り入れながら、多様化するスポーツ環境に対応できる指導者を育成していきたい。

質疑応答

質疑：指導者の育成に伴い、部活動の地域移行なども進められると思うがスケジュールはあるのか。

応答：休日の移行を予定しており、協議を進めているが課題が多い。受け入れ先の調整なども必要であり、市で枠組みを作ってから移行することなどを考えている。

質疑：エリアサービス事業などで実際に受講者が指導者になっているのか。

応答：スポーツカレッジの受講を条件として指導者を担ってもらっている。エリアサービス事業では参加者を技術で分けないようにしているので、その点も重視して学んでもらっている。

質疑：鹿嶋市はスポーツ部門を教育部で行っているが、入間市は健康推進部で行っている。なにか連携はあるのか。

応答：介護予防運動教室や高齢者向けのスポーツ教室などを受託事業として実施しており、スポーツクラブが運営している。

総括《視察後の意見交換》

▽　スポーツクラブがここまで組織化されて、事業実施に努めていることに驚いた。

▽　指導者の育成を部活動の地域移行にも活用している点が参考になった。

▽　講座内容を見るとスポーツの指導者育成や健康増進だけでなくAEDやけがの予防とケアなど、災害時の自助活動にも役立つと感じた。

▽　大きな団体が運営することで事務負担や人的な余裕も生まれやすく、入間市でも参考になると思った。

▽　指導者育成としての事業だが、部活動の地域移行については今後の課題となってくるものと感じた。

茨城県大洗町（おおあらいまち）7月6日（木）9時30分から11時まで

人口　１５，８００人（令和５年６月末日現在）

面積　約２３．８９㎢

概要　茨城県の太平洋岸のほぼ中央にあり，東茨城郡の東端に位置している。県都水戸市の中心部(水戸駅)から南東に約 12km，東は太平洋に面し，北は那珂川を境にひたちなか市と，西北は涸沼川を境に水戸市と，西南は汽水湖である涸沼をはさみ茨城町と，南は鉾田市とそれぞれ接している。

美しい海岸線はおおらかな湾形をなし，市街地はおおむねこれに沿う低地部に形成され，後方に標高 25m～35m の丘陵を背負っている。涸沼側に近い低地部には水稲が栽培され，

丘は、畑・山林となっており、丘陵は関東ローム層の洪積台地である鹿島台地の北部に位置している。表日本型の海洋性気候のため，平均気温は茨城県の内陸地方と比較すると冬は平均で 1～3 度高く，逆に夏は 2 度前後低くなるため，温和でしのぎやすい気候となっている。

教科センター方式の中学校について

（1） 大洗町立南中学校建設の概要について

南中学校は老朽化に伴い、平成 8 年から検討が進められ、平成 10 年 9 月から改築工事が進み平成 12 年 3 月に校舎が完成、4 月に竣工式を行った。南中学校の概要は下表のとおりで、令和 5 年度の生徒数は約 100 人。

大洗町立南中学校概要	
構造・規模	鉄筋コンクリート造、一部屋根：鉄骨造、地上 3 階
面積	敷地面積：28,993 ㎡、建築面積：3,567.96 ㎡、延床面積：6,376.52 ㎡
基本構想	教育環境研究所
設計・監理	三上建築事務所
施工　建築	安藤・株木・要特定建設工事共同企業体
設計期間	1998 年 2 月～1998 年 6 月
施工期間	1998 年 9 月～2000 年 3 月

建設費は約 17 億円で、スペースを多く確保している分費用もかかっている。全面的に木質化しているが、海が近いため、外壁は塗装ではなくタイルを前面に貼っている。

（2） 教科センター方式の概要について

教科センター方式は、専門教科だけでなく数学や英語など、教科ごとに専門教室が設けられている方式である。クラスごとの教室はなく、ホームベースというクラス単位の拠点から教科ごとに移動して授業を受ける。各専門教室には、隣接してパソコンや専門資料が配置されている「メディアセンター」というコーナーがあり、生徒たちが自主的に学び情報を共有できる場として活用されている。

生徒たちは朝にインフォメーションボードを見て 1 日の予定を確認する。また、始業終業を知らせるチャイムを無くすことで、決められた授業時間に自主的に移動している。また、南中学校では、基本的に教室と廊下に仕切りがなく、窓を大きくとるなど明るく開かれた学校イメージを創出している。なお、昼食はランチルームというスペースでとっている。

（3）教科センター方式を採用した理由について

改築の検討時に、将来を見据えた独自の中学校としての議論や意見交換が行われた。教育委員会が中心となって、先生や生徒、地域の方々が一緒になって知恵を出し合い、多くのヒアリングを行いながら新しい学校づくりに取り組んだ。その結果、生徒たちが主体的に考え学ぶことができる学校を目指し、アメリカのオープンスクールの影響を受けた福島県三春町の岩江中学校をモデルとし、教科教室の方式も加えて教科センター方式となった。大規模校では難しいが、生徒数約 100 人の南中学校では規模として適していると考えられた。

（4）教科センター方式のメリット、デメリットについて

メリットとしては、専門教室を設けることでその教科の深い専門性や楽しさを理解できること、従来型のように先生を教室で待つのではなく生徒が考えて自主的に行動することで主体性を育めることなどがある。また、メディアセンターを設置することで教科ごとの特色づくりのほか、生徒の自主的な学習にも対応しており、自ら調べて学ぶ雰囲気を作り出している。また、中央メディアという図書室では、開放的な空間に低い書架を配置して資料や本を気軽に楽しく探せるようにすることで、指示を待つ受け身ではなく自主的に行動する力が身に付けられるように取り組んでいる。

デメリットとしては、小学校を含めるとほぼ 9 年間を同じ仲間で過ごすことになり、友人などが固定化してしまっている。小規模校としての課題ではあるが、休み時間は教室だけではなく各場所で過ごしたり、縦割り清掃など学年を超えて活動したりしている。

質疑応答

質疑：通常の学校とのランニングコストなどの比較は行っているか。

応答：比較はしていないが、仕切りがない分光熱費がかかっている印象がある。

質疑：大規模校だとオープンスペースがなじまないとのことだが、理由を伺いたい。

応答：調査研究したわけではないが、スペースとしてあまり多くの教室が作れないことと、教室移動も大規模になるので課題があるのではないかという意見をもらったことがある。

質疑：従来方式の中学校との比較で、教員の残業時間数などの違いはあるのか。

応答：教員の残業時間については、県内の中学校で比較しても少ない傾向にある。

質疑：建設にあたり文科省の国庫補助を受けたとのことだが、現在も続いているのか。

応答：現在も国庫補助を受けており、オープンスペースの部分を申請すると面積分の加算を受けることができる。

総括《視察後の意見交換》

▽　教科センター方式がうまくいっている理由として地域性があるとのことで、入間市で

導入するとしても十分な検討期間が必要だと感じた。

▽　全体的に木質化されていることで、威圧感が少なく落ち着いた雰囲気を感じた。また、廊下等に椅子やベンチが置いてあり、生徒同士のコミュニケーションに配慮されていると思った。

▽　中を見させてもらったときに先生と生徒の関係が上下ではなく、同じ目線で考えられるような作りになっていると感じた。

▽　職員室としての校務室も生徒たちが通行できるよう、オープンになっていることに驚いた。入間市で取り入れるとしたら、メディアセンターのように気軽に立ち寄れるようなスペースがあるといいと思った。

▽　自主性を育む教育と学年間の交流など、入間市においても学習面などで参考にできる点を多く感じた。